

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1・2年前期	1・2	2	選択
担当教員			
秋山後任			
添付ファイル			

講義概要	社会情報を処理する際に要求される、様々な場面・状況で様々なデータを用いて実証するための視点を身につける。前半の講義では、複数者の意識・行動や社会現象に関する実証を行う際の方法を扱う。具体的には、何らかの形態の収集データを統計的に分析する方法を取り上げる。実証計画、変数の設定、データの収集、分析技法の適用、分析結果の解釈などにおいて、陥りやすい誤解を中心に解説する。後半の講義では、受講者自らが国際学術誌に掲載された学術論文を読解する経験を通じて、社会情報学の実践に関する学びを深め、研究動向に関する知見を得る。		
授業計画	1	社会情報と実証 ・この科目が、社会情報に関する考え方・見方にかかわる内容であり、幅広い思考の土台に当たることを開設する。 ・社会情報を扱う実証とは何か、科学の方法論、実証主義について解説し、討論を行う。 ・AL①②を行う。 ・準備学習：授業内容に関する予備知識を得ておく。 ・課題：授業内容を整理してまとめ、すでに保有している知識に結びつける。	
	2	実証計画の策定 ・目的の具体化、対象の設定、データの性質と用いる分析手法を解説し、演習問題と討論を行う。 ・AL①②を行う。 ・準備学習：授業内容に関する予備知識を得ておく。 ・課題：授業内容を整理してまとめ、すでに保有している知識に結びつける。	
	3	変数の設定(1) ・概念と測定可能な変数、未知の変数、代理変数を解説し、演習問題と討論を行う。 ・AL①②を行う。 ・準備学習：授業内容に関する予備知識を得ておく。 ・課題：授業内容を整理してまとめ、すでに保有している知識に結びつける。	
	4	変数の設定(2) ・尺度の構成、定量化を解説し、演習問題と討論を行う。 ・AL①②を行う。 ・準備学習：授業内容に関する予備知識を得ておく。 ・課題：授業内容を整理してまとめ、すでに保有している知識に結びつける。	
	5	データの収集 ・収集方法の種類と特色、量的データと質的データ、欠損値と偏りを解説し、演習問題と討論を行う。 ・AL①②を行う。 ・準備学習：授業内容に関する予備知識を得ておく。 ・課題：授業内容を整理してまとめ、すでに保有している知識に結びつける。	
	6	分析の技法(1) ・データの加工、2変数間の関係・3変数間以上の関係、線形と非線型を解説し、演習問題と討論を行う。 ・AL①②を行う。 ・準備学習：授業内容に関する予備知識を得ておく。 ・課題：授業内容を整理してまとめ、すでに保有している知識に結びつける。	
	7	分析の技法(2) ・目的と変数・尺度の種類、さまざまな多変量解析の手法と限界を解説し、演習問題と討論を行う。 ・AL①②を行う。 ・準備学習：授業内容に関する予備知識を得ておく。 ・課題：授業内容を整理してまとめ、すでに保有している知識に結びつける。	
	8	分析結果の解釈 ・相互作用、論理的整合性、一般化と限定を解説し、演習問題と討論を行う。 ・AL①②を行う。 ・準備学習：授業内容に関する予備知識を得ておく。 ・課題：授業内容を整理してまとめ、すでに保有している知識に結びつける。	
	9	社会情報学の実践(1) ・文献検索法について学ぶ。受講者自身が国際学術誌に掲載された学術論文を読解する演習を行う前段階として、文献を検索する演習を行う。 ・AL①②を行う。 ・準備学習：研究のキーワードやトレンド等をまとめておく。 ・課題：文献検索を行う。	
	10	社会情報学の実践(2) ・受講者が自身の研究内容と読んでみたい論文等について説明する。さらに、アカデミック・ライティング、パラグラフ・ライティングについて学ぶ。 ・AL①②③④を行う。 ・準備学習：自身の研究内容と文献検索の結果をまとめる。 ・課題：論文の構造を確認する。	

	11	社会情報学の実践（3） ・ 学術論文読解演習を行う。受講者は論文の背景部についてプレゼンテーションを行い、その内容を議論する。 ・ AL①②③④を行う。 ・ 準備学習：プレゼンテーションとディスカッションの準備を行う。 ・ 課題：論文のプレゼンテーションとディスカッション。
	12	社会情報学の実践（4） ・ 学術論文読解演習を行う。受講者は論文の方法部についてプレゼンテーションを行い、その内容を議論する。 ・ AL①②③④を行う。 ・ 準備学習：プレゼンテーションとディスカッションの準備を行う。
	13	社会情報学の実践（5） ・ 学術論文読解演習を行う。受講者は論文の結果部についてプレゼンテーションを行い、その内容を議論する。 ・ AL①②③④を行う。 ・ 準備学習：プレゼンテーションとディスカッションの準備を行う。 ・ 課題：論文のプレゼンテーションとディスカッション。
	14	社会情報学の実践（6） ・ 学術論文読解演習を行う。受講者は論文の考察部についてプレゼンテーションを行い、その内容を議論する。 ・ AL①②③④を行う。 ・ 準備学習：プレゼンテーションとディスカッションの準備を行う。 ・ 課題：論文のプレゼンテーションとディスカッション。
	15	社会情報学の実践（7） ・ 学術論文読解演習を総括する。受講者は文献読解のターゲットとした論文の概要をまとめて、プレゼンテーションを行い、その内容について議論する。 ・ AL①②③④を行う。 ・ 準備学習：プレゼンテーションとディスカッションの準備を行う。 ・ 課題：論文のプレゼンテーションとディスカッション。
授業形態	講義、討論を取り混ぜて実施する。 アクティブラーニング：①:15回, ②:15回, ③:6回, ④:6回, ⑤:0回, ⑥:0回	
達成目標	①適切なモデルを構築し、そのモデルにふさわしい変数の設定と分析技法の選定ができる。（標準） ②分析した結果について、分析過程がともなう限界を考慮しつつ、適切な解釈ができる。（応用） ③関心がある事柄に関する社会情報学の学術論文を文献検索することができる。（基礎） ④社会情報学に関する国際学術誌に掲載された学術論文を読解できる。（標準） ⑤社会情報学の学術論文の知見を整理し、その内容について議論することができる。（応用）	
評価方法・フィードバック	レポート1回、プレゼンテーションとディスカッション5回。プレゼンテーションとディスカッションはその都度コメントによるフィードバックを行う。	
評価基準	秀（①②③④⑤）：90点以上 優（①②③④⑤）：80～89点 良（①③④）：70～79点 可（①③④）：60～69点 不可：59点以下	
教科書・参考書	授業時に適宜指示する。	
履修条件	なし	
履修上の注意	後半の講義では、受講者自らが国際学術誌の文献読解演習を行うことから、一般的な大学院生が最低でも保有すると思われる程度の英語力は求める。	
準備学習と課題の内容	授業内容を整理してまとめ、すでに保有している知識に結びつける（2時間以上）。プレゼンテーションを行う際は、論文の内容をただ単純にまとめるのではなく、補足説明が求められる部分についても調べてくること（5時間以上）。	
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:20%, 思考・判断:30%, 関心・意欲:10%, 態度:20%, 技能・表現:20%	